

【小樽税務署長賞】

不公平さをなくして

小樽市立潮見台中学校 三年

成田 瑞香

「何も知らない子どもが何を言っているのだ。」と言われてしまいかもしれないけれど、正直、私は税金を増やしてもいいのではな
いかと思っています。確かに家計の負担は大きくなってしまいうけ
ど、増やした税金を海外のように教育や医療関係などに使ってい
て、もっと日本が潤っていけばいいのではないかと思っただけ
です。例えば、消費税二十四%のフィンランドでは、教育費はほと
どの大学が無料だそうです。消費税二十五%のスウェーデンの場合
は医療費が無料になるケースもあり、さらに、消費税二十五%の
デンマークでは、医療費が無料、出産費が無料、教育費が無料、充
実した高齢者サービスなど社会福祉がとても充実しているそう
です。だから、そんな税金の使い方は魅力的だなと思っただけ
から、そんな税金の使い方は魅力的だなと思っただけです。

また、最近では就職をするのにも大学卒業以上という条件が多
くなってきていると聞きました。もしも、大学が無料になれば、
お金が無くて、大学に入れなかった。働こうと思っただけ、大卒
じゃないので、希望する職場に就職できなかった。という不公平
さはなくなるのではないかと思います。実は、私はなりたい職業
に就くために、大学進学のことなどを調べた際に、奨学金制度
があるに

も、学費の負担が大きすぎると考えたのも、このようなことを考
えるきっかけとなったのです。

大学進学をとっても、希望する人が全員、大学に行けるよう
な制度を、税金によって、つくるのができたら、たとえ税金が
増えたとしても不満は少ないのでしょうか。

このように、国民の生活のためになる制度や、学びたい人
が全員、学べるような大学の制度があれば、希望する職場に
行けたり、お金がないから、学びたくても学べないというこ
とがなくなると思

います。国民が安心して、暮らせる制度が充実しているとい
うことが本当に豊かな国と言えるのではないのでしょうか。

日本は今、超高齢化社会です。日本は年金という制度があり
ますが、その年金も私の父や母たちの世代からだんだんと減
る量が少なくなっていくと聞きました。そして、私たち中
学生が大人になる時には、年金に頼れず、自分たちの貯金
で、老後を過ごしていくかなくてはならないと聞きました。
年金に頼ることのできない生活を、幸せに安心して暮ら
していくためにこそ、税金が使われていくと良いと思
います。そして、その税金に私たち中学生や、子ども
なども、みんなが払う消費税を使っていけばいいのでは
ないでしょうか。だから、消費税を上げると当然、その部
分の税収は増えます。だから、増えた分を社会福祉に
使おうと、より豊かな国へと変わっていくのには、年金
に頼らずに、幸せに安心して暮らせる豊かな国にな
ってほしいです。